
練習作

T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

練習作

【Nコード】

N4321M

【作者名】

T

【あらすじ】

Armored core3 の二次創作です。

おかしくないような文章にしているつもりですが、ぜったいどこか変なので感想は厳しめをお願いします。因みに感想はどなたでも書き込むことが出来るように設定してあります。

件名：レイヴン試験

for Yuh i

こんにちは。

こちらは季節の変わり目などないレイヤードですから、たまにそちらが羨ましくなります。

そちらでは、何か変わったことがありましたか？

こちらはなんと、もうすぐ念願のレイヴン試験が始まります。

この日のために出来ることはしてきたつもりですが、やはり戦場にとつ事になると考えると、不安は消え去ってくれません。

私は自分のMT乗りとしての下積みが上手く出ることを願う限りです。

何にせよ、落ちれば待つてゐるのは死。

Yuhiiと連絡を取れなくなるのは悲しいので、必ず受かってきます。

今回はちょっと改めて書いてみたけど、やっぱりどっかへんだわww
すまん(´・・・)

第一話

俺が「俺」であることを思い出したのは、五歳……四歳？……四歳から六歳の間の事だ。

朝起きたら唐突に思いだした…んだっ たかなあ？

自信ないからこれはいいや。

とにかく思い出してから始めにしたことはノートに「俺」について書いたことだった。

十九歳

高専生

一回留年

男

身長163cm

体重65kg

五キロ太った

頭悪い

英語苦手

読み返すと初めのページにこれらが書いてあった。

間違っ てはいない。だが、今だから思えるのだろうが他にも書くことがあったと思う。

何度見ても恥ずかしい。

次に、両親がキサラギと言う企業で働いているのを思い出し、また、スクールでここが地下世界レイヤードだと習ったのも思い出し、ここが「俺」であったときにファンだったゲーム、ARMORED COREの、それも3の系列とよく似た世界だと判断した。

よって、たぶん、いつか、何かの役には立つかもしれないと考えて、3からSLまで思い出せる限りのことを書き込む。

それらを書き終えると、俺はまず勉強を始めた。

「俺」であつた時に一番後悔したのは、なんで小さいときからもっと勉強していなかったんだ、ということであり、頭の柔らかい内に「俺」の時にやっていた範囲まで、英語、数学、物理、化学を勉強しておこうと思つたのだ。

それが功を奏し、十一歳くらいの頃には復習が終わり、それから先の勉強に入った。

ここからが大変だつた。「俺」の時代より遙に進んだ技術を持っているここでは、専門的な分野の進み具合がハンパなかったからだ。キサラギの技術部で働いている両親に何度も質問しながら、俺は知識を身に付けていった。

ちなみに、そこまで頑張つたというのに、スクールのクラスメイトには俺よりも頭が良い人間が二、三人はいたのはショックだつた。どうやら天才はバカとは頭の作りが違うらしい。

そんな俺に転機が訪れたのは、十六の時だつた。

我が家のある居住区に、ACの襲撃があつたのだ。

ACとは、ARMORED COREの略称であり、作業用メカ「MT」をベースに開発された汎用戦闘用機械のことだ。

基本シャーシのコア（胸部）を中心に、最小限の負担であらゆる形状のマシンを構築できるよう対応を図る「コア構想」のもとに開発。

その戦闘力の高さから、現行の最強兵器として、戦場を席卷している。

それが、襲ってきたのだ。

断続的な爆発音や発砲音、人間の怒声や悲鳴。

俺はガードの避難誘導に従いながら、それらを遠い世界のように感じていた。

そのような事態になっても、現実感がわかなかったのだ。だから、目の前に砲弾が着弾するまで、俺は動けた。

被害がでたのだ。

目の前で。ぐしゃぐしゃになった前にいたはずの人間の肉片と血飛沫を浴びた途端、俺は腰が抜けて、震えが止まらなくなった。

物凄く運がいいことに、ACが撤退し、その場に企業の救出部隊が来るまで、それ以上砲弾が降って来ることはなかった。

夜勤に出ていた両親と病院で泣きながら会ったときに思った。

この世界は、一般市民の命は木の葉の様に軽い。

死にたくない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4321m/>

練習作

2010年10月8日22時55分発行